

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	2024年2月9日
【四半期会計期間】	第73期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	平田機工株式会社
【英訳名】	HIRATA Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平田 雄一郎
【本店の所在の場所】	熊本県熊本市北区植木町一木111番地
【電話番号】	096 - 272 - 0555（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 管理本部長 二宮 秀樹
【最寄りの連絡場所】	熊本県熊本市北区植木町一木111番地
【電話番号】	096 - 272 - 5558
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 管理本部長 二宮 秀樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第3四半期 連結累計期間	第73期 第3四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2023年4月1日 至2023年12月31日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高 (千円)	55,183,482	61,008,849	78,443,846
経常利益 (千円)	4,447,164	6,103,834	5,802,982
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	3,223,081	4,647,571	4,269,969
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	5,260,288	5,470,088	5,311,516
純資産額 (千円)	59,524,686	64,123,826	59,575,645
総資産額 (千円)	109,349,408	125,188,455	114,522,788
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	310.42	447.50	411.23
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	310.40	-	411.21
自己資本比率 (%)	54.1	51.0	51.7

回次	第72期 第3四半期 連結会計期間	第73期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2022年10月1日 至2022年12月31日	自2023年10月1日 至2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	142.44	225.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は「業績連動型株式報酬制度」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
3. 第73期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く経済情勢は、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化、インフレ抑制に向けた各国の金融引き締め等により、依然として、先行きは不透明感を払拭できない状況が続いております。米国におきましては、製造業が低迷しましたが、良好な雇用情勢を背景に個人消費が堅調に推移しました。欧州におきましては、インフレ圧力が緩和傾向となったものの、外需の低迷などにより、景気回復は減速基調となりました。中国におきましては、個人消費の回復が遅れたことに加え、不動産の不況や輸出の減少などの影響により、景気は減速傾向が継続しました。わが国におきましては、外需に弱さが見られるものの、企業景況感は改善傾向となり、設備投資も堅調に推移しました。また、雇用・所得環境の改善により、個人消費も回復基調が継続しました。

このような経営環境のもと、当社グループにおきましては、中期経営計画（2022年度～2024年度）の2年目を迎え、「成長市場でのビジネス拡大」、「グローバル企業としての競争力強化」、「ESG経営の取組み強化」、「ニューノーマル時代に即した経営の実現」に向けた展開を更に加速させるため、さまざまな施策に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、電気自動車（EV）関連生産設備が大きく売上高を伸ばしたことに加え、半導体関連生産設備の原価率が改善したことにより、前年同期から増収増益となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は610億8百万円（前年同期比10.6%増）となり、営業利益は59億3百万円（前年同期比32.0%増）、経常利益は61億3百万円（前年同期比37.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は46億47百万円（前年同期比44.2%増）となりました。

セグメントの状況は、以下のとおりであります。

自動車関連

自動車関連におきましては、グローバルなEVシフトへの加速により、自動車メーカーからの設備投資が増加したことで、売上高・利益ともに堅調に推移しました。この結果、売上高は268億42百万円（前年同期比26.9%増）、営業利益は19億17百万円（前年同期比115.1%増）となりました。

半導体関連

半導体関連におきましては、シリコンウェーハ搬送設備の生産が底堅く推移したものの、その他の半導体関連の売上高が減少傾向となりました。この結果、売上高は201億26百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益は36億52百万円（前年同期比39.2%増）となりました。

その他自動省力機器

その他自動省力機器におきましては、有機エレクトロルミネッセンス（有機EL）関連および家電関連が売上高・利益ともに減少となりましたが、車載向けフラットパネルディスプレイ（FPD）関連の売上高は増加しました。この結果、売上高は121億74百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は3億75百万円（前年同期比60.8%減）となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて106億65百万円増加し、1,251億88百万円となりました。その主な内訳は、売上債権等（受取手形、売掛金及び契約資産、電子記録債権）の増加72億91百万円、検査・解析装置等の投資および七城工場増設・関西工場建替による有形固定資産の増加25億85百万円であります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて61億17百万円増加し、610億64百万円となりました。その主な内訳は、設備投資や生産の高まりを受けて資金需要が増加したことによる有利子負債（短期借入金、長期借入金）の増加47億13百万円であります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて45億48百万円増加し、641億23百万円となりました。その主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上46億47百万円および配当金の支払い9億40百万円により利益剰余金の増加37億7百万円、円安の進行に伴う為替換算調整勘定の増加9億3百万円であります。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末の51.7%から51.0%となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書の「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」に記載した、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、10億9百万円であります。
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,756,090	10,756,090	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	10,756,090	10,756,090		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日		10,756,090		2,633,962		2,219,962

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 308,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,440,100	104,401	-
単元未満株式	普通株式 7,190	-	-
発行済株式総数	10,756,090	-	-
総株主の議決権	-	104,401	-

(注) 1. 「単元未満株式」の欄には、自己株式52株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には役員向け株式交付信託に係る信託口が所有する当社株式60,100株(議決権の数601個)が含まれております。なお、当該議決権の数601個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
平田機工株式会社	熊本市北区植木町一木 111番地	308,800	-	308,800	2.87
計	-	308,800	-	308,800	2.87

(注) 自己名義所有株式数の欄には、役員向け株式交付信託に係る信託口が所有する当社株式は含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,134,387	9,744,319
受取手形、売掛金及び契約資産	42,972,283	49,062,681
電子記録債権	8,463,652	9,664,541
棚卸資産	14,219,410	14,945,390
その他	2,875,248	3,552,675
貸倒引当金	9,751	10,565
流動資産合計	79,655,230	86,959,043
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,888,319	11,659,555
機械装置及び運搬具（純額）	1,828,466	2,792,166
工具、器具及び備品（純額）	847,437	1,205,644
土地	9,850,292	9,874,400
建設仮勘定	887,729	1,356,330
有形固定資産合計	24,302,245	26,888,097
無形固定資産		
借地権	25,781	25,781
ソフトウェア	434,557	432,959
その他	289,491	394,666
無形固定資産合計	749,829	853,407
投資その他の資産		
投資有価証券	2,328,139	2,252,295
破産更生債権等	1,019	1,081
退職給付に係る資産	6,182,143	6,919,502
繰延税金資産	239,430	246,958
その他	1,389,633	1,294,225
貸倒引当金	324,884	226,157
投資その他の資産合計	9,815,482	10,487,906
固定資産合計	34,867,558	38,229,411
資産合計	114,522,788	125,188,455

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,966,957	7,109,066
電子記録債務	4,800,696	4,395,366
短期借入金	12,612,145	15,963,377
1年内返済予定の長期借入金	9,407,156	8,987,660
未払金	942,786	872,454
未払費用	3,276,392	2,303,938
未払法人税等	781,179	856,576
契約負債	3,033,178	3,193,974
賞与引当金	88,247	200,588
役員賞与引当金	123,306	-
製品保証引当金	376,614	459,553
工事損失引当金	138,227	118,536
その他	646,237	1,521,158
流動負債合計	43,193,125	45,982,251
固定負債		
長期借入金	7,738,188	9,519,696
役員株式給付引当金	125,514	156,159
繰延税金負債	749,791	1,314,944
再評価に係る繰延税金負債	2,023,008	2,023,008
その他	1,117,516	2,068,569
固定負債合計	11,754,017	15,082,377
負債合計	54,947,143	61,064,628
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,633,962	2,633,962
資本剰余金	14,319,556	14,319,556
利益剰余金	37,381,654	41,088,903
自己株式	2,429,350	2,410,935
株主資本合計	51,905,823	55,631,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	668,114	902,594
繰延ヘッジ損益	198,362	54,455
土地再評価差額金	4,500,520	4,500,520
為替換算調整勘定	1,667,364	2,570,871
退職給付に係る調整累計額	239,726	249,104
その他の包括利益累計額合計	7,274,089	8,168,635
非支配株主持分	395,732	323,703
純資産合計	59,575,645	64,123,826
負債純資産合計	114,522,788	125,188,455

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	55,183,482	61,008,849
売上原価	43,814,859	47,177,965
売上総利益	11,368,623	13,830,884
販売費及び一般管理費	6,895,120	7,926,994
営業利益	4,473,502	5,903,890
営業外収益		
受取利息	25,217	22,308
受取配当金	35,577	37,737
為替差益	-	73,791
助成金収入	215,046	20,070
受取賃貸料	82,127	109,509
原材料等売却益	35,370	25,666
その他	49,062	30,121
営業外収益合計	442,402	319,205
営業外費用		
支払利息	64,583	88,589
為替差損	357,555	-
その他	46,601	30,671
営業外費用合計	468,740	119,260
経常利益	4,447,164	6,103,834
特別利益		
固定資産売却益	14,565	2,590
投資有価証券売却益	-	582,367
特別利益合計	14,565	584,958
特別損失		
固定資産除却損	10,853	288
固定資産売却損	17,613	135
特別損失合計	28,467	424
税金等調整前四半期純利益	4,433,263	6,688,368
法人税等	1,246,523	2,118,504
四半期純利益	3,186,740	4,569,863
非支配株主に帰属する四半期純損失()	36,341	77,707
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,223,081	4,647,571

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	3,186,740	4,569,863
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	182,914	234,479
繰延ヘッジ損益	557,474	252,818
為替換算調整勘定	1,348,350	909,246
退職給付に係る調整額	15,191	9,316
その他の包括利益合計	2,073,547	900,225
四半期包括利益	5,260,288	5,470,088
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,285,696	5,542,117
非支配株主に係る四半期包括利益	25,408	72,028

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	1,100,756千円	1,308,045千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会	普通株式	679,000	65.0	2022年3月31日	2022年6月6日	利益剰余金

(注) 2022年5月13日取締役会の決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有する当社株式に対する配当金4,205千円を含めております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月12日 取締役会	普通株式	940,322	90.0	2023年3月31日	2023年6月5日	利益剰余金

(注) 2023年5月12日取締役会の決議による配当金の総額には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有する当社株式に対する配当金5,670千円を含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	自動車関連	半導体関連	その他 自動省力機器	計		
売上高						
一時点で 移転される財又はサービス	1,111,202	14,054,194	4,042,632	19,208,029	1,639,888	20,847,918
一定の期間にわたり 移転される財又はサービス	20,041,677	6,357,172	7,917,475	34,316,325	-	34,316,325
顧客との契約から生じる収益	21,152,880	20,411,366	11,960,107	53,524,355	1,639,888	55,164,243
その他の収益	-	-	-	-	19,238	19,238
外部顧客への売上高	21,152,880	20,411,366	11,960,107	53,524,355	1,659,127	55,183,482
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	636	636
計	21,152,880	20,411,366	11,960,107	53,524,355	1,659,763	55,184,118
セグメント利益又は損失()	891,770	2,624,197	957,125	4,473,094	3,011	4,470,082

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていないセグメントであり、当社子会社がおこなっている太陽光発電関連およびポイント・顧客管理システム関連を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	4,473,094
「その他」の区分の利益	3,011
セグメント間取引消去	3,420
四半期連結損益計算書の営業利益	4,473,502

当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	自動車関連	半導体関連	その他 自動省力機器	計		
売上高						
一時点で 移転される財又はサービス	2,148,419	16,286,147	4,031,536	22,466,102	1,379,406	23,845,508
一定の期間にわたり 移転される財又はサービス	24,694,495	3,840,824	8,143,276	36,678,596	470,044	37,148,641
顧客との契約から生じる収益	26,842,914	20,126,972	12,174,812	59,144,698	1,849,451	60,994,149
その他の収益	-	-	-	-	14,700	14,700
外部顧客への売上高	26,842,914	20,126,972	12,174,812	59,144,698	1,864,151	61,008,849
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	412	412
計	26,842,914	20,126,972	12,174,812	59,144,698	1,864,563	61,009,262
セグメント利益又は損失()	1,917,783	3,652,310	375,615	5,945,709	45,239	5,900,470

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていないセグメントであり、当社子会社がおこなっている太陽光発電関連およびポイント・顧客管理システム関連を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	5,945,709
「その他」の区分の利益	45,239
セグメント間取引消去	3,420
四半期連結損益計算書の営業利益	5,903,890

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	310円42銭	447円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	3,223,081	4,647,571
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	3,223,081	4,647,571
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,383	10,385
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	310円40銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	0	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があった ものの概要	-	-

- (注) 1. 役員向け株式交付信託に係る信託口が保有する当社株式を、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間63千株、当第3四半期連結累計期間61千株)。
2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月9日

平田機工株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

福岡事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿部 與直

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大瀧 克仁

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている平田機工株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、平田機工株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。